

R7 年度 第 1 回 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定委員会 議事録

日 時 : R7 年 7 月 1 日(火) 13:30 ~ 16:00

場 所 : 香南市役所 3F 303 ~ 306

出席者(委員)

石筒委員長・石丸委員・小笠原委員・北委員・古川委員・廣岡委員・北委員・森委員
江口委員・門田委員・別府副委員長 (11/15)

上田委員はオンライン参加を予定していたが、接続不良により不参加となる。

出席者(市行政)

濱田市長・三木教育長

企画財政課(門脇課長・近藤補佐・小林係長・金城主査)

地域支援課(小川課長) ・健康対策課(伊藤課長)・福祉事務所(山下所長)

商工観光課(萩野課長・山本係長)・農林水産課(小松課長)・学校教育課(小松課長)

住宅政策課(浜田課長) ・情報政策課(中島課長)・こども課 (猪原課長)

傍聴者 ... 1 人(県職員)

(小林係長)

お時間になりましたので、ただいまから、R7 年度 第 1 回 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定委員会を開催いたします。

本日は、ご多用のところ、本委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

私は、昨年度に引き続き、総合戦略の担当をさせていただきます、企画財政課の小林です。

本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

また、今年度の異動により、事務局である企画財政課の課長が門脇となりました。

このことから、一言、ご挨拶をさせていただきます。

(門脇課長)

4 月から企画財政課長をしております門脇と申します。

昨年度は、ワークショップで少しだけですが関わらせてもらいました。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

(小林係長)

ありがとうございます。

また香南市の姉妹都市である沖縄県八重瀬町から本年度当課のほうに、1 年間、交換職員として当課に配属されました金城さんが、この 1 年間、一緒に当戦略に携わっていただきますので、一言ご挨拶をさせていただきます。

(金城主査)

皆さん、こんにちは。

ただいまご紹介いただきました金城です。

姉妹都市の沖縄県八重瀬町より 1 年間だけになりますが、交流職員として参りました。

他市町村の総合戦略の策定委員会に携わることはなかなか出来ないですし、貴重な経験だと思っておりますので、この経験を八重瀬町でも活かせるように頑張りたいと思います。

よろしくお願い申し上げます。

(小林係長)

ありがとうございました。

それでは、本日の委員のご出席について共有させていただきます。

本日は、中道委員、國常委員、北山委員、高木委員よりご欠席の連絡をいただいております。

また、上田委員に関してはオンラインで参加を予定されていますのでよろしくお願いいたします。

本日の会は、香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会設置条例第 6 条第 2 項の規定に基づき、半数以上の方にご出席いただいておりますので、成立いたしますことをご報告いたします。

それでは、開会に当たりまして濱田市長よりご挨拶をいただきます。

(濱田市長)

R7 年度になりまして第 1 回目の委員会にこのように多くの皆さまに、大変暑い中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

昨年度にご検討いただき、でき上がりました香南市未来戦略におきましては、委員長を初め、各委員の皆さまに本当に様々な視点で、そして新しい考え方、また新しいデジタルも含めた、これまでなかった取り組み等についてご意見等をいただき、策定された、素晴らしい戦略であると、私自身も思っております。

厳しい人口減少下において、高知県、そして香南市も厳しい状況の中で、まさに我々にとって、香南市未来戦略が、未来の子どもたちに、しっかりと香南市を引き継いでいってもらえる、やっぱり香南市がえいと思えるようなまちをつくっていく、まさに土台であると承知をしております。

これからさらにこの未来戦略を磨き上げていくことになろうかと思っておりますので、これまでと変わらぬご支援、そしてご尽力のほど、お願い申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

(小林係長)

ありがとうございました。

続きまして、三木教育長より一言ご挨拶をお願いいたします。

(三木教育長)

お世話になります。

未来の市をつくっていくということにおいて教育が絡まないはずがないです。

必ず、何かしら、どのジャンルであっても、そこに到達するまでの段階には、社会教育も含まれますけども、いろんな意味合いで教育に関わることは間違いのないと思っております。

未来ということ言えば、まさに、未来をつくるために、そこに到達させるための教育の在り方、そういったことにつきましてもぜひご意見をいただけたらというふうに思います。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(小林係長)

ありがとうございました。

それでは、ここからは、議事に移らせていただきます。

まず委員の皆さまには、6 月 24 日に郵送やメールにおいて本日の資料をお送りさせていただきましたが、本日、書類等がお手元のない方はいらっしゃるでしょうか。

また、本日、追加資料として A4 の書類を 2 枚置かせていただいておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、ここからの進行につきましては、石筒委員長にお渡しさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(石筒委員長)

それでは議事に入らせていただきます。

本年度、第1回目の香南市未来戦略、策定委員会ということで、昨年度までは、策定にむけて皆さまにご検討をいただいていたのですが、今年度からは、実際にこの計画は動き出しました。今年度に関しては、実際に動き出した戦略の中身を皆さまにご確認いただき、ご意見等を頂戴する、または、議論等を賜りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

本日は議題が3つございます。

1つ目は、第2期の総合戦略に関する振り返りといいますが、R2年度より取り組んでこられた内容についての説明を事務局からいただきます。

前期から委員をやられていた方もおられると思いますので、そこを、第3期の未来戦略のどのように引き継がれたかというところも、見ていただきながら、またご意見、質疑等をしていただきたいと思います。

2つ目は、香南市の人口推計というタイトルになっておりますが、前回の会で人口に関して、速報値が共有されたと思います。

実際に戦略を進めていく中で、一つ重要なポイントになってきますので、改めて共有していただきたいと思います。

3つ目は、今回の戦略期間で取り組む内容に関して提案がありますので、ご説明をいただき、ご意見等をいただければと思います。

それではまず、議事の1つ目について事務局から説明いたします。

(小林係長)

まず、説明に入る前に、2つご連絡をさせていただきます。

1つ目は、本日の資料ですが、かなり資料が多くなってございますが、先に資料と「資料の見方」をお送りさせていただいておりましたことから、少し割愛して説明をさせていただくことをご了承ください。

2つ目は、資料の修正です。

紙ベースでお配りしている方に既に修正をしておりますが、事前にメールで資料をお送りした方におきましては、資料2の、7ページの下に「県外からの移住者」とありますが、R4年度の目標値が、26とあったと思いますが、正しくは36になります。

このことから、実績もAではなくBとなりますのでよろしく願いいたします。

また、連動して、2ページの5年間の評価において、青の10番のR4年度の部分もBとなり、下の合計数もAが28から27へ、Bの27が28となります。

申し訳ありませんでした。

それでは、次第(1)の「香南市未来戦略の完成について」に移ります。

資料は参考資料1から参考資料3になります。

まず、昨年度、皆さまに当市の現状をご理解いただき、委員長を先頭にワークショップやご議論をいただきました香南市未来戦略は、R7年2月3日の会で承認をいただき、R7年2月10日から3月10日までパブリックコメントを実施いたしました。

パブリックコメントでは、本日の参考資料3に内容を記載しておりますが、7人より11件のご意見をいただきまして、石筒委員長と回答に関して、協議をさせていただき、当市HPに公表をさせていただいたところです。

また、パブリックコメントでは、未来戦略の内容を大きく変更する内容は無しと判断いたしまして、R7.3.31付けで、香南市未来戦略を委員会として市長に報告し、策定をされました。

去る6月に開会されました当市議会の諸般の報告にもありましたが、皆さまにご協力をいただ

き、当市の未来戦略を策定できましたことを改めましてお礼申し上げます。
ありがとうございました。

なお、未来戦略の内容におきましては、これまでも共有をさせていただきましたので、詳しい内容は、割愛いたしますが、この戦略の考え方である、これまで取り組んできた「人口減少を抑制する取り組み」に加え、人口減少が避けられないという前提に立った「人口減少に備える取り組み」に取り組む考え方は、6月13日に、国が閣議決定をした「地方創生2.0の基本構想」の考え方にも似ておりましたので、引き続き、これからも住み続けてもらえるまちづくりや進学や就職等により一旦は、市外・県外に出たとしても「やっぱり香南市がえい」と帰ってきてもらえるまちづくりの取り組みを進めていきます。

次に、R6年度の取り組み内容と5年間の総括についてです。

資料は、資料1と資料2になります。

冒頭、委員長よりお話がありましたが、R2年度よりR6年度までは、第2期期間ということで、昨年度まで、未来戦略の策定を進めながら、既存の取り組みも進めて参りました。

本日は、この内容について、皆さまに共有をさせていただき、議論を深めていこうと考えておりましたが、石筒委員長との事前協議の中で第1期戦略の策定から、委員長として携わっていただきました、現高知大学 学長の受田学長に、実績をご報告させていただき、そこでいただいたご意見等を委員の皆さまの共有をさせていただくことをもって、総括とさせていただくことといたしました。

事前にお送りした資料に対する疑問点等もあろうかと思いますが、質問等は、後ほどの質疑の時間であればと思います。

それでは、本日お配りいたしました、当日資料1をご確認ください。

R7.6.23に、高知大学の受田学長のもとへ、石筒委員長、別府副委員長、当課でご報告に伺いました。

学長からは、5年間の取り組みでPDCAサイクルを回し、苦勞をされている様子が資料から想像できる。

人口ビジョンの目標値(30,800人)をKGI(最終目標)とすると、それを実現するためのKPIが、仮にすべてA評価であっても、人口は減少したという結果では本来は意味がない。

各評価をしたうえで、香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略に取り掛かり10年が経過し、様々な取り組みを進めてきたところで、R6年度に、一度足元を確認するために実施した将来人口推計を確認できていることは非常に重要である。

そして、その結果から、楽観視できない現状が浮き彫りになっており、人口ビジョンの達成は非常に困難な状況であることを確認されている事自体に意味がある。

第3期では、この部分をふまえ、これまで取り組んできた「人口を食い止める視点」に加え、「受け入れていく視点」にも取り組まれていくことは理解した。

国がR7.6.13に閣議決定された「地方創生2.0」の考え方の中に、「関係人口」に関する内容があり、これまで人口が1人減る・増やすという考え方があったが、これからは人口が減ることをうけいれながら、『知の総和』という考え方で、地域の維持・向上を目指す考え方を取り入れるべきではないかということで、資料内にもありますが、例えば、これまで人口30人の地域は30人で維持しないといけないという形で考えられてきた部分を、これからは、人口が例えばですが、23人になったとしても、1人当たりの様々なレベルや能力を現状の1.3倍にして、 23×1.3 とすれば、ほぼ現状の30人で維持することとかわらないとする考え方を取り入れてみてはどうかとのご提案をいただくとともに、地方創生2.0の中に明記はないが、本市が、人口ビジョンで掲げる約3万人を維持することが難しいとすれば、その質的な部分をどのように埋め込んでいくか、織り込んでいくか、重ね合わせていくかという部分は、ご当地で調べて、議論して

いくべき大きな課題かもしれないとお話を聞かせていただいたところでございます。
以上の内容のお話をさせていただき、5年間の総括とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

次に、議事(1)の「香南市企業版ふるさと納税について」に関しましてご説明をさせていただきます。

資料は、参考資料4になります。

「ふるさと納税」に関しては、委員の皆さまも利用された経験もあるのではないのでしょうか。
返礼品から選ぶケースが多くなっているとは思いますが、この事業の定義としては、本来は自分の暮らす自治体に納税する税金を、任意で選択した自治体、例えば、応援したい自治体や生まれ故郷等に寄付することで、税金の還付・控除が受けられる仕組みです。

企業版ふるさと納税は、個人ではなく、法人が寄付をする制度と捉えてもらえるとわかりやすいと思いますが、1つの軸として、「地方創生の取り組みを応援する」という部分があります。

つまり、本市で言いますと、「香南市未来戦略に紐づく取り組み」がそれにあたることになります。
本市では、R5年度より、企業版ふるさと納税事業に取り組んでおりまして、参考資料4の下段にお示ししている通り、R5年度は、4社より合計510万円、R6年度は6社より合計690万円のふるさと納税をいただき、各事業の実施に活用をさせていただいております。

なお、この内容につきましては、本日発行されております香南市の7月号広報でも掲載しておりますのでそちらもご確認いただけますと幸いです。

最後に、本年度の取り組み状況ですが、今年度はすでに2社より、ご寄附をいただいております。

今後も本市の未来戦略の事業を前に進めるため、企業版ふるさと納税による応援をいただけるよう取り組んで参ります。

以上、議事(1)の から の説明を終わります。

(石筒委員長)

ありがとうございます。

議事(1)に3つのことがありましたが、皆さまのほうで、この内容に関して質問等ございます方、いらっしゃいますでしょうか。

特に3番目は、これまでの策定委員会では余り議論してなかったポイントです。

前総合戦略とつながって、企業の皆さまからのご支援をいただくという内容にもなってくるかと思いましたがいかがでしょうか

よろしいでしょうか。

それでは次の議事に移りたいと思います。

香南市の人口推計に関して、事務局よりお願いいたします。

(小林係長)

資料3と4、参考資料5でご説明いたします。

まず、資料3をご確認ください。

1ページ目ですが、資料の左に青い四角で囲んでいる部分があると思いますが、ここは、5町毎の各年度末の住民基本台帳による人口の実績になります。

2024年、R6年度末の人口数は、香南市全体で32,414人となっています。

次に、2025年から2060年まで、5年ごとに薄い色のグラフと濃い色のグラフが並んでいると思いますが、薄い色の方は、H27年度作成した人口ビジョンの数値で、その当時の過去10年間の社会増減、自然増減、今後の開発予想をもとに、今後、何も取り組まなかった場合の推計が記載されています。

濃い方は、昨年度作成した、直近10年の社会増減、自然増減、今後の開発予想に加え、市内転

居の考えと R5 年度に香南市で暮らしていた外国人が、今後も変化しない、そして、外国人を実習生と捉え、3～5 年のサイクルで入れ替わる、つまり、赤ちゃんを産むという事にはつながらないという考えを取り入れた推計値となっています。

比較しますと、2025 年、R7 年度では、H27 年度推計も R6 年度の推計も、32,319 人、32,187 人と大きく差はありませんが、右に進むにつれ、その差はどんどん大きくなり、例えば、15 年後の 2040 年で見ますと、R6 年度の推計では、R6 年度末の総人口数 32,414 人から、27,525 人と 4,889 人の減少が予測されています。

そして、35 年後の 2060 年では、R6 年度末の人口 32,414 人と比較しますと、11,597 人減の 20,817 人が予測されました。

H27 年度の推計よりも約 4,000 人少なくなる見込みとなったことは、非常に人口減少が加速化していることを示しています。

このように、今後、人口減少はさらに進むことが見込まれることから、冒頭ご説明をさせていただきました通り、未来戦略では、これまで取り組んできた「少子高齢化を抑制するための取り組み」、移住や出生数をあげる取り組みも引き続き行いながら、人口減少は避けられない前提に立った、「人口減少に備える取り組み」を、まち・ひと・しごとの「しごと」の部分を担当、香南市産業振興計画や各個別計画とともに連携をしながら、また、皆さまからのご提案等もいただきながら進めていきたいと考えています。

なお、2 ページ以降は、各町の今後の推移等を記載していますのでご確認ください。

次に資料 4 をご確認ください。

こちらは当市の現状をまとめた資料になります。

ご確認いただいている部分もあろうかと思いますが、1 ページ目には、これまでの人口の推移や出生数、新築の推移を、2 ページ目には、本市の転入出の推移や移住者数の推移を、3 ページには、外国人の人口推移やどこの地域に暮らしているか、また、こういった在留資格で滞在されているかについてまとめています。

この書類から見えてきていることとして、まずは、皆さまも目に付いたとは思いますが、1 ページにあります「出生数」が、合併した H18 年以降、250 人から 300 人弱の出生数がありましたが、H30 年度頃より、出生数は減少傾向にあり、R6 年度には 186 人と、とうとう 200 人を割ってしまった状況です。

また、この 186 人の産まれた地域を見ますと、野市町が 147 人、香我美町が 27 人と続き、夜須町 7 人、赤岡町 2 人、吉川町 3 人と 1 桁の数が続いています。

また、本日の資料にはありませんが、高知県全体で見ますと、高知県は、近年は毎年出生数がワーストであり、2024 年、R6 年の出生数は、6 月 14 日の新聞には、3,108 人とあり、過去最少の状況であるとありました。

ただし、同日の新聞や県の HP にも掲載されておりますが、濱田知事のコメントでは、「婚姻数は増加に転じる等明るい兆しもある」とされていまして、そういった部分に関しても、本市としてどうしていくかが今後の課題であると認識しております。

また、3 ページには、外国人の人口推計が示されています。

ここで修正をお願いします。

外国人のグラフに「各年度の年度末」と記載していますが、正しくは、各年の 4/1 現在の人口数になります。申し訳ありませんが修正をよろしく願いいたします。

この、外国人の部分に関しましては、以前もご説明をいたしましたが、本市は、新型コロナウイルス感染症の入出国の制限がなくなった R4 年度を境に、年々外国人が増加傾向にあり、R7.4.1

現在で 496 人の方がいらっしゃいます。

そのうち約 7 割の方が技能実習等により本市で生活をしている方になります。

また、国別で見ますと、ベトナム、インドネシア、フィリピンの方が多くなっています。

なお、本市の人口は約 32,000 人ですが、そのうち 500 人弱の方が暮らされているということで、約 1.5%の方が外国人である現状ですが、R2 年度に実施された国勢調査から見られる外国人の占める割合の全国平均は 2.18%であることを鑑みますと、本市の場合、700 人弱の方が暮らされていてもおかしくない、つまり、あと 200 人は増えるのではないかと考えることができます。

次に、参考資料 5 をご確認ください。

この書類は、H27 年度に策定した「香南市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」にもとづき、その後の毎年の現状をまとめている書類となります。

内容としては、先ほど説明いたしました資料 4 に記載内容と重複する部分がありますが、1 つだけ共有させていただきます。

6 ページの下段の表をご確認ください。

ここには、本市の社会増減、転入出の数字や自然増減、出生数や死亡者数が示されています。

香南市は、野市町の宅地開発に関する転入等が進み、わずかではあります、近年も社会増が続いています。

一方で、死亡者数が出生数を上回る自然減も続いており、社会増と自然減を比較しますと、自然減の方が多く、結果的に人口が減少しているまちなります。

なお、社会増に関しましては、先ほど資料 3 のグラフの部分で説明を失念いたしました、R12 年度に野市町の開発が一旦落ち着くのではないかという見込みがありますことから、R12 年度以降はこの社会増減の部分も減少になると見込んでいます。

説明は以上になります。

(石筒委員長)

ありがとうございました。

先ほど、人口推計のグラフが出てきましたけども、今後人口は減少していくということは、昨年度の議論の中でも、ある程度そうなることということで話をしたのですが、今後、このスピードは上がる可能性があります。

資料 3 に推計が示されていて、あくまで推計なのですが、比較的、人口推計というのは当たりやすいと言われてたのですが、外れる方向性も、より早く減るってような外れ方といいですか、角度がより急になってくるって可能性はあるのかなとは思いますが。

昨年度、皆さんにご議論いただいた中では、人口は減少するという前提をしながら、「やっぱり香南市がいい」という、住みやすいまちづくりをどうするかという議論になっていたかとは思いますが。

今回の説明は主にはこの人口の推移の将来像ではあったんですが、一旦、この時点で皆さんのほうからご質問とかご意見がございましたら、ちょっと何か実感しているとかでもいいですし、何かございますか。

もしないようでしたら、この後の意見交換のときにそういったところも含めてご意見等もいただければと思います。

それでは、次の 3 番目議題の説明に移りたいと思いますが、その説明後に 1 回休憩をはさみたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

そのあと、皆さんからご意見をいただこうかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(小林係長)

それでは次に議事(3) 戦略期間内に取り組む内容(案)についてご説明いたします。

資料は、資料5と本日お配りした当日資料2をご確認ください。

まず、資料にはありませんが、画面で共有させていただき資料をご確認ください。

これは、先月の6月号広報で、未来戦略ができましたというページを掲載した時のものです。

このページの下段には、今年度から取り組む新規事業や拡充事業を抜粋して掲載していますが、昨年度、策定に向けて様々な議論をいただいた中で、一番多かったご意見としては、やはりこども施策という部分でした。

このいただいたご意見から、今年度からは、掲載されているように、野市町にあります総合子育て支援センターにこなんの開所について、これまで第2、第4土曜の開所をしておりましたが、今年度より毎週土曜日の開所をおこなったり、また、夜須と香我美の児童クラブはこれまで18時半まで預かれて、他の児童クラブは18時までとなっていた部分を今年度からは18時半まで預かれるようになったりのご意見を活かした対応を進めることができました。

また、出産後の産後ケアに関するご意見におきましても多くいただきましたが、R7年度より、野市町の市内事業者さんが1か所、通所型の産後ケアの事業に取り組んでいただいているというお話を先だって、健康対策課の伊藤課長より伺いをしたところで、非常に喜ばしく感じたところでした。

このように、未来戦略策定に向けた議論からいただいたご意見から実現化されたこともありますが、今後の「人口を維持する」という取り組みで必要となる部分で取り組もうと考えている内容が資料5の内容になります。

なお、資料5に記載されている内容は、未来戦略の期間であるR7年度からR9年度において、取り組んでいこうと考えている内容になります。

まず、1つ目ですが、これは、本日お配りしている参考資料3のパブリックコメントのご意見の中で、2ページと3ページに掲載されている部分になりますが、そのパブリックコメントの中で、「常に学生が入ってくる、住んでくれるまち」に取り組むべきではないかというご提案をいただきましたことから、学生を対象としたヒアリング事業ができないか検討をしています。

学生については、県外・市外出身者の方もいるでしょうし、香南市民の方もおりますことから、どの方を対象にどのようなことを伺うかについての検討となりますが、学生時代に過ごしたまちというのは、その後の人生においても、関わりをもつ可能性が大きいのではないかと、もしかすると、引き続き香南市で暮らしてくれる可能性があるかもしれない。また、将来、戻ってくる対象地域として当市を選んでくれるかもしれないとの考えを軸に、近隣の4校に出向いた形で学生たちに直接ヒアリングをさせていただき機会の検討、市内のコンビニやスーパー等に協力をいただき、アルバイトをしている学生等に意見を伺う機会の検討、香南市で働く30歳までの方を対象としたヒアリング、これは手始めに、まずは当市の職員を対象としたものになるかもしれませんがそういった方を対象にしたヒアリングを行えないかと考えています。

伺う内容としては、県外出身者(学生)が高知県で暮らす中で感じていることの確認や香南市が選ばれているか否かの確認、選ばれている理由や他市町村を選んだ理由の確認、香南市で暮らし続けてきた中で感じていることや今後求めること等について確認を行い、今後の施策につなげていきたいと思っております。

また、2つ目として、新成人を対象としたアンケート調査を行います。

この「新成人」は、本市の成人式の対象の20歳の方を指しておりますが、当市の生涯学習課に協力をいただき、アンケートに取り組む予定で、社会等を経験された新成人の視点で、香南市を見た意見等を伺いたいと考えています。

3つ目は外国人の実態把握を模索ということで、先ほど資料4で説明したように外国人の数は

全体的に増えていますし、今後も増える可能性があります。

昨年度皆さまと協議したワークショップ等でも、外国人に関するご意見をいただいたところですが、我々も含め、どのような業種で働かれているかとか どういった関わり合いを地域が持っているかとか、関わることを求めているのか、これは、地域も、そこで暮らす外国人もそうですが、何を求めているのかという部分も正直把握ができていない部分があります。

そういった部分の調査を、5月に、地域支援課・各支所にお話をさせていただき、現在そのことについて動いていただいていますので、その情報共有を、定期的に行われる支所長会という会の中で共有していくことで話をしています。

次に、本日お配りいたしました当日資料 2 をご確認ください。

この資料は、本市のデジタルの取り組みについて、情報政策課が取り組んでいる内容をまとめた資料になります。

このことについて、情報政策課よりご説明させていただきます。

(情報政策課 中島課長)

デジタル化の主な取り組みについて情報政策課のほうからご説明をいたします。

市では R5 年度から、情報政策課を設置しデジタル化、それから行政の DX を進めていく、香南市デジタル化推進計画を策定しました。

その中で住民の皆さまからの手続に関して、時間と距離の制限を取り払うオンライン申請や行政事務の効率化のためのシステムの内製化、必要なものは自分たちで作り、外注をしないためスピーディーにすることができる、そういったものに取り組んでいます。

具体的には、昨年度の定額減税調整給付金について、オンラインによる申請の受け付け、一方で、市民による申請のデータがあって、それらを取り込んで口座振込データをつくるシステムの内製、3つの技術とサービスを組合せて一貫したシステム業務の構築ができ、迅速な給付につながりました。

その他にも、各課の業務についてデジタル技術サービスの導入の支援をしてみました。

特に民間では普通のこと、出来て当たり前という意味で要望が多いキャッシュレス決済の導入については、各課に展開できるサービスとなるものなので、準備、展開をしてみたいと考えています。

今後の取り組みにつきましては、キャッシュレス決済の導入、それから町内会連絡アプリの導入、この町内会のアプリにつきましても、ご意見としてはデジタル化すべきだというご意見と、それからそれにそこまでではないと町内会の活動の温度にもよるかとは思いますが、そういったものの取り組みを進めてみたいというふうを考えています。

いずれにしても、今後の取り組みにつきましては予算の確保も必要となりますことから、現時点ではあくまで予定となっておりますが、これらのシステムの導入や取り組みを進めてみたいと考えております。

以上になります。

(小林係長)

ありがとうございました。

デジタルの観点で、少し余談になりますけども、本戦略のしごとの部分を担う香南市の産業振興計画の策定委員会が、6月27日に行われまして、自分のほうも参加させていただきました。

その中で、首都圏企業の委員様より、今後、AIの活用が見込まれるという話なんかも出ておりました。

これは人口減少がもたらす人材不足をカバーする部分として、各分野の AI が、この先 2~3 年の間に加速するんじゃないかという内容のお話をされていたのが非常に印象に残っており、共有をさせていただきました。

また、先ほど情報政策課さんのほうからご説明がありましたけども、この資料にありますことは、すべて確定してる事業というわけではありません。

しかしながら、こういった形で市のほうも DX とか AI という分野に関して取り組みを進められているというところでご認識いただければと思います。

説明が大変下手くそで恐縮ですが、香南市として、今後取り組もうとしてる部分に関しての共有になります。

(石筒委員長)

ありがとうございました。

先ほどの資料 5 のところに出ていた内容案がありましたけど、これはどちらかというと昨年度、それほど踏み込んで議論してなかった部分も多いかなと思っています。

パブリックコメントの内容等も含めて、足りなかった部分ということもあるのかなと思います。

それからデジタル化の資料、DX の資料もございましたので、この後休憩をとった後に、これまでの議事 1 から 3 を含めた形で、皆さまから、順番にご意見、ご質問等をお受けしたいと思いますのでよろしく願いいたします。

休憩後

(石筒委員長)

それでは、再開させていただきます。

この後は、委員の皆さまからご意見、ご質問等をいただければと思いますが、先ほどの資料 5 やデジタル化に関してもそうですし、それ以外も含めて、ご意見等をいただければと思います。

それでは、まず、森委員からお願いします。

(森委員)

1 つ目がキャッシュレス決済の導入です。

R6 年度から導入して、今年度も導入をされてるという流れを伺い、また R9 年度にも導入の予定になってますけど、この R6 年度に窓口キャッシュレスレジの導入等、電子申請、キャッシュレス決済機能を追加となっておりますが、利用頻度は多くなっていますでしょうか。

また、いろいろな職の方が香南市にはいると思いますが、各職場にも行かれてると思いますが、税金の納付とかは、コンビニエンスストア等での納付がすごく多くなってると思うんですけど、そういったところの取扱いというか、当然、コンビニとかでやっていただいたほうが個人的にも待ち時間も少ないし、時間もかからなくて、すぐ納付ができるということで、香南市にとってもすごい大きなことだと思うんですが、窓口こられたときに現金じゃなくてキャッシュレスとかで納付、これもすごい大きなことだと思いますので、そこら辺の割合が以前から比べてかなりの頻度で増えてるのかどうか教えていただければと思います。

(情報政策課 中島課長)

割合について具体的な数字は持ち合わせていない。

R7 年 2 月に市民保険課と税務収納課にキャッシュレスのセルフレジを導入しました。

導入当初は周知も不足していて、戸惑われる方もいらっしゃいましたが、その後は一定の割合で増えてきているというのは職員の体感ではあります。

また、レジの締め作業自体が、非常に簡略化されたというのを聞いております。

また、電子申請のキャッシュレス決済というのは、先ほどのレジ型とは違って、オンラインで申請をしたときに、そのまま、例えば申込みに関係すること、利用料等、そういったものをご自身のスマートフォンやパソコン等を使ってキャッシュレスでその場でも決済が出来てしまうということ

で、例えば、貸し館をやっている各課から、これまでは納付書が送られてきて、それを日中に、銀行さんへ持って行ってという流れが必要なくなるってということで、こういう機能が附帯されたシステムの導入をしておりますので、これから順次、具体的な申請について整理を進めていくところです。

なお、R7年度に行おうとしている部分として、1つ目は、粗大ごみの処分場にキャッシュレスの導入を検討しています。

現状は、市役所本庁1階に置いてある券売機でゴミ処理券を購入してもらって、ご自身の運転免許証とかとあわせて持っていき、ごみ処分場で受け付けをもらうんですけども、本庁にある券売機に来てもらうというのがどうしても必要でありました。

ごみ処理券の券売機は土曜日でも日曜日でも購入可能であるため、時間の制限はないですが、どうしても来庁いただくところが一つ障害になっておりました。

また、職員側も、釣銭の確認や売上げの確認作業があったんですが、これを、直接処分場へ行ってもらって、そこで受け付けをされる方に車の種別、例えば軽トラでこられたら、こちらですというような形で、軽トラ用のQRを示してもらい、ゴミの処分に来た方が自分のスマートフォン等でQRを直接読み込んでもらって、係の方に金額が合ってるかどうかを確認いただき支払える対応を検討しています。

このような形で、一度市役所に来なくても、現場で、現金を取り扱うこともなく、その日にすぐに支払えるという形がとれるように考えています。

これらの実績を以て、他の事業もそうですが、必要なところに横展開をしていきたいと考えております。

(森委員)

ありがとうございます。

利便性をすごい高めて利用していけたら市民の方もどんどん利用するのは楽になってくると思います。

(石丸委員)

資料3の人口推移と今後の人口推計ということで、2060年までの推移が出ておりますけれども、徐々に人口が減ってくることを理解した。

僕は、農業委員もやってる関係で、非常に香南市、特に野市町は開発が進んでおります。

今後も、35戸ぐらいの宅地が出来ます。

しかし、野市町以外のところで人口が減っているということでしたが、野市町はもう少し開発が進むのではないかと感じていますが、逆に、空き家が増えて、人口が減っていく部分がある。

一方で、市内に、大型店舗等の参入もしてきております。

そういった中、心配されるのは、人口は増えるわりに、発展はしていかないのかなというふうな心配も出てきております。

市長さんもいろいろ大変な部分があると思うんですけど、今後、香南市についてこの人口の推移に関して、市長のご意見があれば伺ってみたい。

(濱田市長)

ありがとうございます。

他市町村と比べると香南市は事情が違いまして、先ほど石丸委員のおっしゃるとおり、さらに開発等が進むであろうという状況もあります。また、空港から野市まで高速もつながりました。

今後はさらに、野市町の東部等も圃場整備地が多いので、なかなか厳しいとはいえ、これからの利便性を考えますと、香南市野市町東部あたりも一定、不動産関係者から注目をされてくるのではないかなというふうなことの想像も出来ます。

その中で、本日は、県の江口委員も来ておりますが、県が今進めている、そして各市町村が進め

ておるとことは、とにかく来てくれということで、純粹にその町に呼び込むことに力を入れています。

我々は、幸いなことに市外等から来てくれている部分がありますし、その方々の利便性を高め、香南市をさらに好きになって、いかに香南市に住み続けてもらえるのか、そのために、幸福度をいかに高めていくかという視点に立っていくべきであって、そのための取り組みがこの未来戦略だと思っております。

2060年の人口推計もありますが、例えば、先ほど企画財政課の小林から説明させていただきましたが、昨年、香南市は出生数が186人ですけど、香美市さんは84名、そして、34市町村の中で、10町村が1桁だったと記憶しています。

また、生まれてくる子どもの数が、1名というところも多くあります。

そういった中で、今後、東部の町等から、家を建てて暮らそうとしたときの選択肢として、当市を含めた物部エリアというのは、第1候補に上がるのではないかと思いますし、その中でも香南市はそうでありたいと思っています。

先ほどの説明の中で、R12年ごろに開発が止まるのではないかとこの部分においては、もう少し続くのではないかと考えています。

その点において、住みやすさというものを、現状においても、他市町村と比べて、かなり取り組みをやっておると承知してるので、その中で、もう1段階、なんといいですか、これまでとは違った形の、例えば、デジタルを使っていくであったり、また、地域を巻き込んで関わって、その地域への愛情、愛着というのが湧いてくるという取り組みであったり、そういった部分を、私自身も体験したことでありますし、そういった部分をいかに今の住民の皆さまに参加をして、実感をしてもらうかが大事になってくると考えています。

しかし、残念ながら、野市町では、家が建っている中で、町内会すら出来てないような地区がたくさんありますので、そういったところをもう少し、地域愛に変えていくと言いますか、それぞれの地域の中で、新しいつながり、そしてまた、その新しい形のまちづくりというのを、ここでご意見をいただきながらつくっていけば、まだまだ可能性がある市だと思っております。

答えになってるか分かりませんが、そのように考えています。

(石丸委員)

先ほど市の説明にあったように、何もしなかったらやっぱり寂れていくまちになると思う。

この未来戦略は非常にいいと思います。

また、新しく入って来られた方にも、若い方にも、地域等に参入していただきながら、今後の香南市を、未来をつくっていきってもらいながら、香南市の発展に向けて取り組んでもらいたいと思います。

(小笠原委員)

資料5で説明の合った取り組みで、学生をターゲットとしている話がありました。

学生が香南市で暮らすための施策というのが面白いなと思っているところです。

私どもも最近、特に忙しく、石筒委員長にもお願いしたり、高知工科大学さんにもお願いをして、学生さんに短期のアルバイトに来ていただいているが、非常によく働いてくれます。

本当に真面目で、よく働いてくれて、職員がやるより、若い子がやってるほうが、周りの人たちも気になるのか協力的になったりしてくれて、本当に助かったなっていうところがあるんですけども、その子たちを見て、この子たちがどうやったら、うちの事務所でこのまま働いてくれるんだらうと思うことがあるんです。

この業界は、どうしても転職で来られる方が多い分野で、この子たちが新卒でこのまま観光業に入ってくれたらと思っておりますが、どうやったら入ってくれるのかなとか考えながら、一緒に働いてもらっていることがあります。

私も大学は県外の大学に行ったので、そのときに家等を探すのは大学の周辺であって、大学の

周りにどんなに住みやすい他市町村があっても、例えば、高知市の大学に入ったとすると、隣の南国市で住むところを探そうっていう気にはならなかったんです。
やっぱり自分の大学のある市っていうところから探すっていうことがあったので、ぜひこの学生が香南市で暮らすっていうところを考えると、学生さんが探す時期に営業じゃないですけども、大学側にも、香南市って便利なまちがあるんですよっていうようなところも PR されるとたくさん来られるんじゃないかなと思いました。
ただし、香南市の場合は、どうしても野市への一極集中になってしまうんじゃないかなっていう心配もあります。
市は、野市だけに集中させたいというところじゃないと思うので、どうやったら、もっといろんなところに行ってくれるかなというところも感じます。

また、私の家族は農業をされていて、今朝も早朝からトウモロコシの収穫で、袋詰めとか朝 5 時ぐらいから学生さんたちが手伝いに来てくれたりしています。
学生の力は、農業等にもすごい大きな力になったりするんじゃないかなとか思っているところです。
「こうやって暮らしてもらおう」というところもありますし、将来、高知大学、工科大学、高専等を卒業されて、県外や自宅に戻ったときに、「ここで暮らしてた」という部分は、大学時代ってというのはすごく印象に残る時期でもありますし、いいところだったなっていう気持ちを持って帰ってもらえたら、将来戻ってきてもらえるとか、または、もちろん、観光業の立場で言えば、友達連れて遊びに帰ってきてくれたらいいなというところもあるので、是非、この学生を対象した「香南市に暮らす」というところに力を入れていただけたらいいなと思いました。

(小林係長)

貴重なご意見ありがとうございます。
先ほどの説明でお伝えしぬかっていた部分として、資料 5 の右上に、赤い四角で囲んでる部分があります。
香南市の現状を調べてみようということで、当市の 18 歳から 22 歳の方がどれぐらい単身で暮らしてるかという部分を調べました。
ただし、年齢の方が大学生なのか社会人なのかは分かりませんが、調べた結果、2 人ぐらいしかいないことがわかりました。
次に、市内の不動産屋さん数件に電話で、学生が単身で暮らしているか、借りられているかという現状を伺いました。
その結果は、明確な数字は解りかねますが、一定数いらっしゃるということがわかりました。
このことから、住民票が移されていないんだなということに気付いたところでした。
また、ある不動産屋さんの肌感の話なので確証のある部分ではありませんが、小笠原委員がおっしゃられたように、大学がある町だとか、あと、学生の本業は学業ですから、学業後、バイトを夕方から夜にして、疲れたら寝るというサイクルの中で、そうなると、バイト先や学校に近い場所に暮らす傾向があるとのことのご意見もいただいたところです。
移住の考え方と似ているなと思ったところですが、バイト先、つまり働く先があるかないかっていう部分も非常に大事というところで、そういった部分で行くと、近隣では、やはり、南国市で暮らされる方が多いという話をいただきました。
今回の話の中で、野市町でも一定暮らしている学生がいるというところもあるので、理解できた課題の部分等も含めて研究をしていきたいと感じているところでもあります。

(北委員)

幾つかあるんですが、まず 1 つ目、デジタル化の主な取り組みについて説明をいただき、これはいいなというふうに思いました。

そしてこの中にスマホ教室のことがあり、情報政策課さんと生涯学習課さんが担当されるっていうことなんですが、他市等の事例になります、防災関係の課も一緒になって、子どもたちが高齢者の皆さんにスマホの使い方を教え、そしてその中で、災害のときにはそれも活用して状況を知ったりとか、どういうふうに逃げたらいいとか、そんなところまでやっているという内容をお聞きしたことがあります。

生涯学習課さんで取り組めるようでしたら、子どもたちが高齢者を教えるような、子どもって言うっても、中学生以上になるかと思えますけど、そういった子どもたちが市の課題を解決していくというところで、何か一緒にやっていけるようなことがあればすごくいいなというふうに感じました。

2つ目は、今年度取り組む内容について、にこなんの土曜日開設の拡充ということですが、利用者数はどんな感じでしょうか。

それを1つお聞きしたいと思いました。

(こども課 猪原課長)

にこなんの利用のことについて報告をさせていただきます。

はっきりした人数は本日持っておりませんが、にこなんの所長に聞いた中では、第2、第4の開設時は、多いときで60人から70人の参加があったそうです。

にこなんの土曜日の開所は、朝9時半から11時半までで、その間の利用が60人から70人ということですが、毎週開所することによって、20人から30人ぐらいに落ちついてきていて、施設のスペースのこともありますので、ちょうどいいぐらいの人数になってきていると報告を受けており、利用がしやすい形になってきているのではないかなというふうに感じております。

(北委員)

どうもありがとうございました。

それから、先ほど産後ケアのお話がありました。

今年度より、市内事業者さんが取り組みを開始されたという事ですが、その利用状況等は把握されていますでしょうか。

(健康対策課 伊藤課長)

健康対策課です。よろしくお願いします。

ご質問ありがとうございます。

お話のありました通り、今年度4月中旬から市内において、事業所が開設されました。

産後ケア事業には、訪問型、通所型、宿泊型と3パターンある中で、現在、通所型を開設されておられます。

今年度中に宿泊型も実施をしたいというお話や、ゆくゆくは助産もできればというお考えもいただいていますので、非常に香南市にとっては有意義で、利用者の方も多く、需要が多くなるであろう施設だというふうに考えております。

現段階で、本市の産後ケアの補助金で通所型の申請者は10名前後いらっしゃいまして、出産はしていないけれども申請書を提出されている方や、まだ、少ないですが利用された方も中にはいると聞いてます。

現在の数としては、実績としては、まだ数件程度であるかなというふうに思っております。

今後、出産が増えるにつれて、それから認知度が上がるにつれてという部分もあると思いますので、健康対策課のほうでも啓発をしていくことで、実績も増えてくるであろうと思っております。

香南市で初めての産後ケア施設です。

これまでは高知市のほうに出向いていかなければならなかった距離への負担感っていうものが非常に大きかった中で、予約もなかなか取れないというようなこともありました、市内にそういった産後ケア施設ができるということは、本市においても、すごく大きな強みになるであろうと

いうふうに認識をしております、市も一緒に啓発のほうも進めていきたいというふうに考えております。

(北委員)

ありがとうございました。

啓発の部分についてお願いしたいなというふうに思っていたので良かったです。

それからもう一つ、これはすごくいいと思ったのが、特別栽培米の提供をしていただいているってことです。

(濱田市長)

まだ、提供は出来ていません。

収穫後に、進めていく予定です。

(北委員)

これは本当に良いことだと思っています。

この取り組みを、野菜とかいろいろなものに広げていっていただきたいというふうに考えています。

子どもたちの体が健全になれば、医療費等も抑えられるでしょうし、それから学校での教育もスムーズに行えたり、町全体が将来的にわたって、長いスパンで考えたときなんですけれど、心身ともに健康ってということで、安全なまちづくりにつながるだろうと思いますので、これにもすごい力を入れていただきたいなというふうに思いました。

感想も含めて以上でございます。

(情報政策課 中島課長)

1つ目でいただきましたスマホ教室に関してですが、これまでの取り組みをお話しさせていただくと、情報政策課と生涯学習課では、基本的に両課とも、高齢者等をターゲットにしておりますが、事業のすみ分けをしております、生涯学習課は、ご自身でスマートフォンを持っている方が、自分のスマートフォンに新しい機能を入れたり、こんなふうに使ったりとかというような、より身近な、スマートフォンを持っている人を対象にしております。

一方、情報政策課では、これからスマートフォンを持たれる方、今、スマートフォンでない方を対象に、スマートフォンってどういったものが、今使っている電話と何が違うのか、どういったところが便利なのかっていうところを、R8年度末に、いわゆる3Gが停波するのに合わせて、スマートフォンへの移行というのを考えて動いています。

そういった動きに合わせて、スマートフォンに移行していただいて、その教室の中で、例えば市が行っている電子申請の操作の仕方であったり、香南市のホームページからハザードマップを見に行って、自分の住んでるところがハザードマップでどう表現されているのかとか、具体的な市のホームページとか情報とかを使ってこんなふうを使うんですよとか、一緒に家族と撮った写真をこうやって送ったら使えますよ等、スマートフォンに移行していただくための教室を行っています。

北委員さんからいただいたお話のように、他団体でのスマートフォン教室というものも非常に参考になる部分があるかと思っております。

生涯学習課についても、来年度も進めていくというふうには聞いておりますので、情報政策課のほうも、3Gの停波を踏まえて、今後新しい取り組み方という形で、スマートフォンを持ってない人だけではなく、持ってる方に対してどのような進め方を行っていくかの部分について考えて進めていきたい。

もう一つ、これは、まだまだ構想段階ですが、市内のキャッシュレスでお買物ができるところも、

キャリアのサービスを使うと、お試しでできるというふうに聞いておりますので、そういったところをやってみて、実際にキャッシュレスで買物をする楽しさなんかがつながっていいなというふうには考えております。

(古川委員)

私から2つ、意見というか感じたことをお伝えしたいんですけども、1件目が人口減少のところ、外国人の技能実習等が香南市で住んでくれていることに関してです。

技能実習生制度が廃止されて、新たに育成就労制度というものに変わって、今後、家族帯同で、住む方が増えるんじゃないかっていうようなことを書かれてるんですけども、私は農業をしていて、新しく変わったところで感じてるのは、外国人数はそんなに増えないのではないかなっていうふうに正直思ってます。

理由としては2つありまして、1つ目は、高知県というのやっぱり最低賃金が全国でも低いので、高知県にまずは入ってくるけど、比較的転籍が簡単になってしまったので、給料の高い地域へやっぱり転籍してしまうと思っています。

それを見越して、農家さんとしても、今までは5年間は少なくとも在籍してくれたが、人材がやっぱり途中で変わってしまうかもしれないってなると、受け入れるには、初期費用もかなりかかる制度ですので、そうなってきたら、技能実習生を入れるのはと躊躇する部分が増えてきてると聞いてます。

これまでとはちょっと違ってきてるのかなという部分があります。

もう1点は、香南市内で外国人が住める物件というのは非常に少ないです。

私も特定技能実習生の方を一度入れてましたけれども、ほぼ家がないに等しかったです。

南国市のほうで物件がありましたので何とか入れていただきましたけれども、現状、香南市で働いてる方っていうのは農家さんの農作業小屋を改修されて、住んでいる方が多いというのが現状だと思います。

この現状は変わらないと家族を呼んで住もうっていう環境にはならない、そこまでに至るには、ちょっと遠いのではないかなと思います。

外国人材が増える見込みについて、私自身が感じたことをお伝えしました。

ただ、実質的な香南市の人口には含まれないかもしれないですけども、やはり、働いて、住んでくれるので経済的にはやっぱり関与してくれる部分でもあるので、そういったところは住むところであるとかを改善していただいて、長く住んでいただけるように少しでもやっていただけたらなと思います。

2点目ですが、町内会連絡アプリに関してなんですけれども、これは非常にいいなと思いました。先だって、初めて、自分の住んでいる地域の町内会の総会というものに参加をしまして、そして、町内会は続けたいけれども、新しく住んでくれる人がなかなか入ってくれないっていう問題と、ぶっちゃけていいますと、みんな町内会長をやりたくないといいますが、いかに押しつけ合うかを考えている感じがして、なぜ町内会長とか町内会の委員をやりたくないかという、そういった日々の協議会さんとのやりとりが難しいとか、煩雑であったりとか、会計さんも月々の支払いとかの手続が大変だとかいうところがあったので、そういったところをこのアプリで、ある程度簡略してもらえたら、現委員さんの負担が減るということと、新たに入りやすい環境になってくるのかなと思うので、この町内会連絡アプリっていうのは非常にありがたいなと思いました。あとは何か、そのアプリにとどまらずですね、できればおまかせシステムみたいな、パックみたいな感じで、例えば、うちの町内会では、瓶と缶の資源回収のときや、木の伐採の時に、シルバーさんをお願いをしたり、子ども会への募金をしたりとか、いろいろお金の動きがあるんですけども、そういったものをシステムの、木を切る時期や掃除をする時期っていうのは決まってるので、1年間分を丸々何かお任せできるようなものがあれば、楽なんじゃないかなと。

会計的にも、それをやってくださる方的にも、1年間決まっていて、お金も払っていけるような、

システムがあれば、皆さんいいんじゃないかなと感じています。

ただ、その反面、町内会に来てくださった方が、皆さん高齢の方たちで、アプリをうまく使っていただけかなってという心配はあったんですけども、そのところ、きつうまく考えてくださってると思うので、うまく活用していただけるようなシステムを開発していただきたいなと思いました。

(濱田市長)

外国人の居住問題は本当に大変難しい。

一つに労働力として考える考え方もあり、農業以外にも、工場や福祉関係等も求められている。また、いろんな SNS 等で様々な情報が流出といえますか出ている。

住民にとって、非常に外国人の方々に対する視点、イメージというのが、特に最近、いろんなところで騒がれてる中において、どう進めていくかというのは、国では、大きく言うと、政治マターになってるところもあるので非常に難しいんですが、私の家の近所にも外国人の方がいらっしゃいますが、実際話してみれば、お互いが分かることもあって、例えば、宗教の問題があって、お酒が飲めなかったり、肉が食べられなかったりとか、そういうことは実際にお付き合いをしてみると分かってくることがある。

本市の生涯学習課で、日本語サロンといえますか交流の場を開いて、集いの場に対する取り組みもやっておりますが、そういうことをもう少し、それぞれの地域で広げていったりすることが出来ないのかであったり、それこそ、まちづくり協議会の行事等で、外国人の方、実際その地域に住まれている外国人の方とコーディネートするとか、そういうことを身近に話してみたり、そういうことをすることが大事なかなってというのが、まず 1 つ。

もう 1 つが物理的にどこに住むかという部分。

これもアパートを持ってる方のオーナーのイメージもあると思います。

イメージが先行してしまって、例えば、外国人は靴を脱ぐ文化がないので、室内を汚されるとか、本当かどうかも分からないようなことまでいろいろな情報が出てますので、そういったことも、やはりきちっとインフォメーションすることも大事ですし、実際これからさらに人口減少が進んでいくと、働いてもらえたらってということで呼び込む動きもある。

そして、アパート経営を考えた場合、地方に行けば行くほど難しくなるとも思うので、そういった段階でもあるので、今後については、もう少し門扉が広がるんじゃないかなと思います。

そういうことも含めながら、地域の方々とはぶつかり合いがないように、個人の方とまさに共生していくって部分が求められると思っている。

当市は人権課もありますし、生涯学習課もあって、そういったところと協力しながら進めていければなと思います。

それと、町内会のこともですが、先日、「私もふらっと座談会」というところで野市町の北部のほうの自治会と話をしたときに、もともとおる方々と、特に野市町の西野なんかでは、新しく入ってきた方で、全然町内会に入ってくれないとか、取りつく島のない方なんかもたくさんいらっしゃるという中で、どうやって進めていくかというのは本当に今の野市町では、切実な課題であって、そこで、言われるように、アプリの活用についてという部分もありますが、例えば、簡単に言うと、LINE でもなんとかなりますし、他社のアプリもたくさん実はあるんですけど、そのランニングコストがまだ高額であったりするので、それをどう払っていくとか、そういうことも含めて、考えていく必要があります。

古川さんがおっしゃるとおり、本当に 1 回で済ませたら、年 1 回の総会と年度末総会で 1 回ずつお金を払う手続をしてみたいな形態が取れば、便利です。加入しやすいっていうのがあると思うので、今、各アプリもどんどん進化してますので、そういうことも、地域支援課が窓口として担当してますので、地域支援課とも話をしながら進めたいですし、それと高齢者の方々のスマホ使えないという部分についても、後ほど紹介をと思ったんですけど、今年度、香南市では、「たまあるかデジタル商品券」というのを出すんですけど、それも Pay Pay を使った商品券事業を予

定しています。

あくまでも、NHKの連続テレビ小説あんばんを含めた観光施策として、市に来てもらう目的で、香南市のお店でしか使えないデジタル商品券なので、デジタルの普及という目的が一番ではないですが、デジタル化というのは避けて通れない部分があります。

これから、マイナンバーもそうですし、様々な部分でやらなければならない中で、デジタルデバインド対策というのはしっかりととっていききたいので、そこは先ほど北委員さんのお話も一緒だと思えますので、広く使ってもらえるように、市がバックアップというか、盛り上げていきたいと思えます。

様々なご提案、そしてまた、それぞれの町内会等でイベントとかで、1回関わってもらおうと広がる部分もあるかと思えますので、地域で小さくても祭り等もやったりしていますので、そういうところに効果を出していってもらったらいいのかなと思えます。

(廣岡委員)

2点気になったのでお話しさせていただきます。

1つ目は、デジタル化に関してですが、当日資料としてまとめていただき、すごく分かりやすく、どんどん進めていて、すばらしいと思うんですけども、やっぱり市民の人にサービスを知ってもらわんと意味がないと思えますので、広報以外にも、LINEとかインスタとか、ケーブルテレビにも行政情報のコーナーとかもありますので、もう少しPRをしたらどうかというふうに感じました。

あと、資料5に新成人を対象としたアンケート調査の実施というところですが、昨年度から取り組んでいるということで、どんな方法で、取り組んでるのかとか回答率とかどれぐらい返事が返ってきたのかというのをちょっと知りたいと思えます。

(情報政策課 中島課長)

現状、市では、SNSの幾つかのツールを持っておりまして、それぞれの部署で、得意といたしますか、対象者に情報を届けやすいSNSを使って情報発信を進めております。

とはいえ、職員の負担といたしますか事務として一つの情報をつくるという部分がありまして、幾つものSNSを使い分けて何回も発信をするってところが現状としてちょっとあるので、どうしても、全てのチャンネルに対して等しく、全ての部署が同じ情報をどんどん流すってところには至ってないのが現状です。

そこについては、すでに、一つの事務で様々なチャンネルに自動的に転送してくれるようなサービスも出来ているので、そういったところを使うことで、より効率的に、きちんと届けたい人に届く、そういった情報をつくっていくってのは進めていくべきではないかというふうに考えております。

(小林係長)

香南市の成人式は、その年に、新成人となる方々で実行委員会が組織されまして、やりたいことを成人式で実行していくという形で、職員ではない、当事者の企画立案型で開催をされています。

昨年度は、リーダーになった方が、第2期戦略期間の中で、5年間取り組んできた、小学6年生、中学3年生、18歳に向けたアンケートに回答された経験から、同級生といたしますか、成人する方がどれぐらい香南市に思い入れがあるかという部分を調べたいという部分で取り組んでくれました。

対象者の総数は、資料が手元にないので、わかりかねる部分もありますが、恐らく母数は200から300の間になられると思うんですけど、そのうち65の方が回答してくれたそうです。様々な角度の質問をしてくれており、例えば、香南市に現在も住んでますかやどういうところが好きですか、愛着を持っていますか等について問われておりました。

このアンケート調査の内容を共有いただいた中で、個人的に印象に残っている部分として、最後に自由記載で求めているところがあったと記憶していますが、昨年度、皆さんとワークショップをして、その中でいただいたような中身の内容、例えば、お父さんお母さんが一生懸命育ててくれて、高知市の学校に通って、そのまま私は県外で今暮らしているけど、将来はやっぱり帰ってきたいですとか、親のありがたみがわかったとか、18歳のアンケート調査の結果とは違う形で、大学生や社会人としての立場で、一度親元を離れた、市外に出たからこそ感じた香南市への思いや意見というのが掲載されていたと記憶しています。

総合戦略での3世代に向けたアンケート調査とは違った視点で、意見をいただけることから、今年も協力を生涯学習課に依頼し、連携して取り組むことにご理解をいただいているところです。なお、アンケートの内容や結果等につきましては、可能であれば共有もさせていただきたいと思っておりますので、ご意見をまたいただけますと幸いです。

(門田委員)

いつも会に出させていただき、父親目線ですとか、9年前に香南市に越して来て、移住者目線とか、事業もやっているのだから事業者目線とか、いろんな目線でいろいろ話を聞きながら考えています。

参考資料2に、未来戦略のKPIがありますが、総合戦略ってこういうもので、ちゃんとあるべき姿があって、目標もしっかりあって、どうやっていくかっていう数値的なデータもしっかり出ているんですが、例えば、目標値はR9年度までとなっていますよね。この9年までの、いつ、どこで、何をやるかっていうのはあるんだと思うんですけども、やはり、僕らは委員会の委員をさせていただいてる以上、通常、会社だったら、大手さんだったら3か月に1回決算するとか、当たり前になんと数字を見ていかないと、どうやっていくかって分からないところがあるんですけど、僕らも委員をやってる以上は任せっきりじゃなくて、「R9年度になりました、KPIの結果はこれでした」ではなく、しっかり見ていく必要があると感じている。

これから人口が減っていくと、本当に自分の家族のことも含めて大変になるし、買物をするところはなくなってくるし、これは他人事じゃなくて、自分の問題でもあるので、一生懸命取り組んで、協力をさせてもらいたいなというところあるんですけど、その中で、細かいデータがあって、いつどうする、駄目だったらこうやって、というところをしっかりと見ていく必要があると思っています。

1年後に、KPI数値で評価って言う形でやってるんですけども、事業ごとに、しっかりと、いつまでにやる、出来ていなかったらどうするかっていうところまでを本来は落とし込んでおいたほうが良いと感じています。

出来なかったら何で出来なかったのかをまた考えて、「この事業は辞めようか」とか「今度はこうしようか」って形ができるんですけど、年に1回、結果だけということで確認をするだけだと、どうしても総評になるだけで、職員の方も、その理由を一生懸命考えて、まとめて、書かないといけなくなってしまうということになってしまう。

この総合戦略にあることが本当に全部出来ていけば、本当にすばらしい香南市になると思います。そこに至るまでにPDCAももちろん大事なんですけど、今時代が本当に変わってきていて、第1期の総合戦略から10年が経過したと思うので、そこからいうと大きく時代は変わっているので、例えば、もう少し細かい確認をするとか、いつまでにとか、駄目だったらどうするかっていうところも落とし込んで、入れていくほうが、非常に大変だと思うんですけども、誰が見ても分かりますし、駄目だったら、例えば、市長が「これどうなってるんだ」と確認もできるわけで、そのうえで、「3か月後にこうするって言ったけどこのままじゃ駄目じゃないか」という事の確認やそれを以て「その事業を辞める」とか、すぐにそういう判断ができると思うんです。

1年後とかだと、どうしてもその判断が遅くなってくるので、周りがどんどん変わっている中で、この資料に関しては、本当はそういう部分もあれば、なお、僕らも振り返りしたときに分かりやすいのかなと感じています。

もう1点ありまして、これは個人的なところもあるんですけど、9年前に越してきて、土曜日に保育所がやっているとところが、香我美おれんじ保育所とのいち幼稚学園さんの2つでした。他の保育所は、昼までは預かってくれますが、1日やっているとところというとその2つしかありませんでした。

そこから9年が経過しても未だに2か所だけです。

また、うちの社員さんで南国市や香美市の方もいる。

子どもがいる社員ともいろいろ話をする中で、「今日もお弁当をつくったで」という話をしたら、「弁当がでないんですか？」ということで、どういうことだろうと思って聞いてみると、土曜日は弁当が出るということで驚いた経験があります。

香美市さんは普通に児童クラブ等でも弁当や給食が出るみたいな話もありました。

すぐ隣の市なのに、温度差がかなりあるというのに驚いたところで、一緒にしてほしいということではないですが、本当に近い香美市、香南市とか安芸市とか南国市で、教育に関するところであったりとか、保育所、幼稚園の事情とかも、ある程度近づけていけたら、もっと1つといいですか、東部地域になってくるんじゃないかなってというのは、最近すごく思いました。

これは意見として、また何か変えていただけるようなことがあったら参考にさせていただきたいなと思いました。

(小林係長)

PDCAの話ですが、策定に向けて昨年度、いろいろ議論をいただいて、事業者様であったらもっと1か月先、3か月先、半年先のビジョンを考えて、1年とは言わず、もっと先の未来を見据えてやられてるって話がありました。

市として、どういった形で落とし込んで確認をしていこうかという部分については、様々な視点で協議をしたんですけど、行政の話で恐縮ですが、春先にやる事業もあれば秋じゃなきゃ出来ないものもあり、また通年で取り組むものと、なかなか民間企業様のような整理が難しいという着地に至りました。

お役所仕事という形の説明で恐縮なんですけど、今回は同じフォーマットの中で、まずはまとめさせていただいているというところです。

また、未来戦略の各関係課の皆さんも、一生懸命取り組んでいただいている、門田委員が言われるように、本来であれば具体的に、5W1H等を用いて、担当課が、または、担当がしっかりと各事業に向き合って、PDCAサイクルを用いて取り組む必要があると思いますが、先に申しました事業の性質上、あるタイミングで一斉に整理するという部分では難しいところもありますことはご理解をいただきたいと思います。

ただし、私個人も、昔民間に勤めており、1か月ごとのノルマや売り上げの確認がある仕事もしていたので、言われることは理解できますし、その視点というのは非常に大事だと思います。

「この事業は1年あるから、その中でやればいいや」では、財政状況も香南市は厳しくなっていることもありますので、そういった取り組み方や考えでは駄目という部分は個人的には強く思っているところなので、何かしら新しい形で示せるようであれば、自分のほうも整理をしていきたいなと感じています。

ありがとうございました。

(こども課 猪原課長)

ご意見をいただきありがとうございました。

土曜日の保育につきましては、門田委員がおっしゃるとおり、公立では、1日の預かり保育を行っているのは香我美おれんじ保育所のみとなっています。

この事業について、拡充を検討する場合、やっぱりそこに職員を配置する必要があります。

1日開設をするにあたっては、全ての保育所、幼稚園でたくさんの職員が必要になるということと、朝7時半から幼稚園であれば夕方6時半、保育所であれば、6時45分までお預かりをし

ているんですが、平日であっても長時間保育を利用される方がいらっしゃるということを見ると、朝の早い時間と夕方の遅い時間にも職員配置が必要になるということもありまして、なかなか預かる時間、費用を増やしていくというところには踏み込めていない状況です。

また、児童クラブでのお昼の提供ですが、今も、数日間はお弁当なしの日というのを作ってしましてお弁当を注文される保護者の方はそれを利用するということをやったりもしています。

回数は少ないですがやっていますけれど、やっぱりお弁当代の負担っていうのが大きくなりますので、できるだけご自宅のほうで、お弁当の用意もしてもらおうということで進めています。

なお、香美市さんの方では、昨年、お試しということで、民間のお弁当を実施したということも聞いております。

これは、お弁当屋さんのご家庭が直接契約をされる形で、注文や支払いも直接やり取りをするという形でやったということも聞いております。

他の自治体が取り組んだことや取り組まれてよかった点、改善が必要なところ等に関しては、情報を収集しまして、どういう形がいいのかというのは協議をしていきたいと考えております。

ありがとうございました。

(石筒委員長)

先ほどの KPI に基づいた話で言いますと、かなり事業数があり、その中で、数値が年に 1 回しか出ないものもあれば、途中で確定する事業もありますし、いろいろと数値以外ではない部分もあると思います。

いろいろ進捗状況を聞いて、最後に、今後のスケジュールの話もありますけれども、次の策定委員会まで間がありますので、その間で内容を議論していくような場ができればいいかなというふうに思います。

そのあたりも検討いただければと思います。

(江口委員)

先ほど、小笠原委員さんも言われましたが、学生を対象にした調査への意見や、それに対する小林さんのお答えを総合すると、高知大学、高知工科大学、高知高専に通われてる方々って割と南国市か香美市で暮らしているんだと思います。

香南市だけで調査するのは何か非常にもったいない気がして、3 市合同でやられたらどうかなっていうのが私の提案です。

むしろ、2 市のほうが調査をすべきじゃないかと個人的には思ってます。

今のようなお話があるんだったら一緒にやって、その中で、香美市に住まれてる方に、個別のヒアリングをさせてほしい等、そういう協力をしていただける方にもヒアリングをしていけばいいのかなと感じたところです。

3 市共同で、特にこの東部にある大学等に関しては何か共通でアンケート調査等をできたらなというのが一つ。

それを利用して、さらに新成人や就職等を考えられてる人達とも合同での就職セミナーなのかインターンなのか、何かそういうような部分で、地元への就職等を促せるような仕組みがあってもいいのかなというふうには考えてます。これは提案です。

できるかどうかありますけども、そういうのを考えられたらどうかなということ。

もう一つは、県といたしましても、ものすごくこの人口減少対策というものが最大の課題として捉えています。それにどう対応していくかというような話です。

先ほど市長からも、こどもまんなかではないですけど、香南市はこられる方々が割と多いので、その環境を良くしていきたいというようなお話もありました。

一方、県としては、先ほどありました移住者を県外から呼んでくるというパターンもありますし、あと、市内にいらっしゃる方々もやっぱり、子どもを産み育てる部分というのは、そういう環境を良くしていくっていう部分もあるんでしょうけども、やはり今、喫緊で、すごく課題なのは、生まれ

る子どもの数自体もかなり減ってきているということなんだろうというふうに思っております。その部分で、最大の要因というのは、結婚数の減少というような話もありますので、そこも含めて、なぜ県がそういうところをやれないのかというようなところが、なかなか県自体も答えがないところではあるんですけども、その部分、結婚数を一定増やす、或いは、子どもの数もどんどん下がっていて、香南市で言えば、最低 200 人以上はずっと維持していかないと将来、市として、持続可能な、継続的にやっていけなくなるという部分もあると思います。

人口が減るのは、高齢者が多いので、自然減が進んでいることによる要因が大きいわけで、これは間違いなく仕方がないことだと思います。

しかし、子どもの数が一定数いれば、ある一定の段階から、この減少は横ばいになるだろうと。ですので、今が踏ん張りどころなのかなというところもあって、香南市としては、いかに 200 人以上の数を維持していくかというところで、その策をこの中には当然、結婚であるとか、出産に関わるものであろうかと思ったり、もう 1 つは、これは北委員さんもよく県庁の会等でも出ていただいているけど、共働き共育てといいますが、固定的な性別役割みたいな文化を払拭していかないとなかなかそういうところにも立ちいけないのかなというところで、やはり同じ町で住まれている方々がそういう共働きとか先ほどの人口の見込みとかも含めて、男女共同で子育てしていくような文化みたいなものを率先してやっていくというところにもう少し何か手が打てないのかなというところがございます。

私も答えは出ていませんので、そういうところを県下のいろんな市町村が今取り組まれてるところもありますので、一緒に見ながら、次のそういうところも考えていきたいと思っています。

(石筒委員長)

今の学生の話でいうと、恐らく外国人の居住も全く同じものなのかなと感じました。職場と住む場所が違うっていう意味で、そこはもしかしたら、3 市合同とかでやるとかは大事なかなと。

(江口委員)

外国人をどうやって把握するかという問題も多分 3 市共通の部分があると思いますが、なかなか難しい部分もあります。

大学は大学にお願いをすることである程度対応できるかもしれないですが、なかなか外国人というのは難しいかなと。

現状、ほかの地域との人材獲得競争的な話にもなりかねない状況が実は生まれてきています。先ほどありましたように、住む家の問題が、高知県がすごく充実しているということになれば、将来の維持も含めて、外国人の方が選んで来てくれる可能性があります。

家の問題というのは、個人資産でもあって、そこへ公費を突っ込むみたいなのところもあって、なかなか思い切れないところはあると思いますが、ただ、そういう環境がいち早く整えば、逆に言うと、外国の方も選んで来てくれるんじゃないかと、そういった部分で悩んでいる外国人が来てくれるまちになるかもしれない。

外国人を増やすというのは、高知県の中ではいろいろ話はしてるんですけども、これと違って…。やはり賃金の方が優先な部分もありますし、先ほどの話じゃないですけど、そういう部分も含めて、実は 3 市とも似通ってる市なので、共通で話し合える場があったほうが面白いかなとは思っています。

(石筒委員長)

その話の持っていき方は、また検討をお願いいたします。

(別府副委員長)

資料 3 の人口推計がありましたが、35 年後に 1 万人以上減ることが自分としては衝撃

でして、香南市は県内のいろんな市町村と比較すると、人口減少は緩やかな部分がありますが、35年後は1万人以上減るっていうふうな状況を認識しておく必要があると思います。今はそこまで減っている印象がありませんが、恐らく、今、安芸市や中芸等、東部の人たちが移り住んでいるのではないかと、香南市は、高知県東部の防波堤みたいな形になっているとおもっているのですが、将来的に、恐らく東部の人たちの数も減っていくとしたら、その方が、当然こっちへ移り住むということも少なくなっていくことも想定しておかないといけませんし、そこに向けて、着実に手を打っていかねばいけないというところだと感じています。

また、戦略の総括で、高知大学の受田学長さんのところに伺ったときに、先ほども出てましたけど、一定人口は減るということは仕方ないんですが、高知大学もものすごく危機感を持っていて、子どもの数が減るっていうことは、当然18歳未満の学生の数も減ってくるという部分は、分かっていることから、今後は、社会人もどんどん大学に来てもらいたい考えだとか、留学生や外国人も当然ターゲットにしないとイケないとか、非常に国立大においても厳しく考えておられました。

その中で、先ほど話のありました「知の総和」ということで、学生は少なくなっても、社会人等にターゲットを広げていく必要があると。

要は、今の自治体においてどう考えるかっていう部分で、人口が減っていくから、高齢化も進んでいくと1人1人がやることもなかなか大変で、やはり、関係人口を増やしていくとか、或いは、先ほど北委員がおっしゃられたみたいに、中学生が高齢者にスマホの使い方を教えるとか、そういうことで、若い人、中学生、高校生、大学生とかをいかに町内会に巻き込むとか、そういうふうなことを、地域の人だけじゃなくって、地域の人でも大人だけじゃなくって、それ以外の人をいかに巻き込んでいくか、或いは、外から来る人なんかも、巻き込んでいくという視点も考えていかないと、これから大変なのかなということを感じている。

ただし、本市としてやらなければならないのは、やっぱり、まずは、この未来戦略に書いてあるように、まずは本市に住んでる人が、住み続けてくれて、本当に香南市が好きで、ずっと住み続けてくれるように、子どもの数も200人ぐらい毎年生まれているので、子どもたちがずっと住み続けてもらえる、或いは、進学、就職で県外に行かないといけないが、その子どもたちがまた戻ってきてもらえるように、この戦略の中で、先ほど門田委員からもありましたけど、いろんな事業を丁寧な、PDCAを回しながら、知恵を絞りながら、とにかく地道にやっていくということが必要なかなと思っています。

この戦略はできたばかりですので、どんどん進化をさせていければいいのかなと思っています。

(石筒委員長)

ありがとうございました。

以上でご意見を賜るのは、最後になりますが、最後、もう一言言っておきたい、言い残したということはありませんか。

ありがとうございました。

資料5に関して、特に今回、この内容になってるということは、新成人、学生と、いわゆる20代の世代に対するアプローチをどうする必要があるかということで、こと恐らく、去年議論になった子どものところがつながっていて、結局、子どもとして育った人たちが、将来、香南市に住むという選択肢をどう持つか、やっぱり大学進学なんかでは県外に出てしまうこともあるかもしれませんが、そのあとに、やっぱり香南市っていうのを、将来の居住の選択肢、生活の選択肢として持ち続けられるっていうのはかなり大きくて、これは高知県がかつて失敗したというか、高知県は何もないから出ていくみたいな感じで、団塊の世代がわーっと出て、結局、団塊の世代が定年になっても戻ってこなかったっていうことを反省点としてはあって、やっぱり住み続けているという人たちが住みやすさを実感しているということが、次の世代に伝わる、子どもにも住みやす

いんだってということでいけば、将来、何らかの形で仕事や進学等に出ていっても、やっぱり戻ってくる選択肢があるだろうと思います。

一方で、課題もあって、先ほどおっしゃられたような課題を、できる限り改善していくというところも、引き続き必要になってくるだろうと思いますので、この後、事務局より、スケジュールの話がありますけれども、次の会の間も、いろんな形で動きがあると思いますので、その都度、委員の皆さまのどなたかにまたご相談という形もあるかもしれませんが、その際は、ご協力をいただければと思います。

以上で本日の議事は終わりになりますので、一旦、事務局の方にお返しいたします。

(小林係長)

本日は長時間にわたりご議論いただきまして、ありがとうございました。
なお、私の方の説明が分かりづらい部分も多く反省しております。
申し訳ございませんでした。

それでは最後にスケジュールの確認をさせていただきます。

資料 6 をご覧ください。

今年度は、先ほど説明をしたような取り組みを進めていければと考えています。

またご提案いただいたものの整理も含めて取り組んでいきますのでよろしく願いいたします。

なお、第 2 回の策定委員会におきましては、R8 年 2 月の前半を予定してございます。

先ほど石筒委員長よりお話もありましたが、その会までに、皆さまにご相談をさせていただくこともあろうかと思っておりますので、その際はご協力をいただけたらと思っております。

それでは、閉会に当たりまして、副市長よりご挨拶をお願いいたします。

(別府副市長)

本日は様々、ご意見をいただきましてありがとうございました。

この未来戦略のもと、香南市の魅力を高めながら、しっかり人口減少を、少しでも、緩やかにしていきたいと思っております。

まだまだ課題はいっぱいありますが、委員の皆さんにご協力いただき、着実に進めていきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。

(小林係長)

以上で、本日の会議を終了いたします。

ご参加をいただき、ありがとうございました。

以上